

2012年度(2013年3月期)

決算説明会



株式会社エージーピー

2013年5月27日

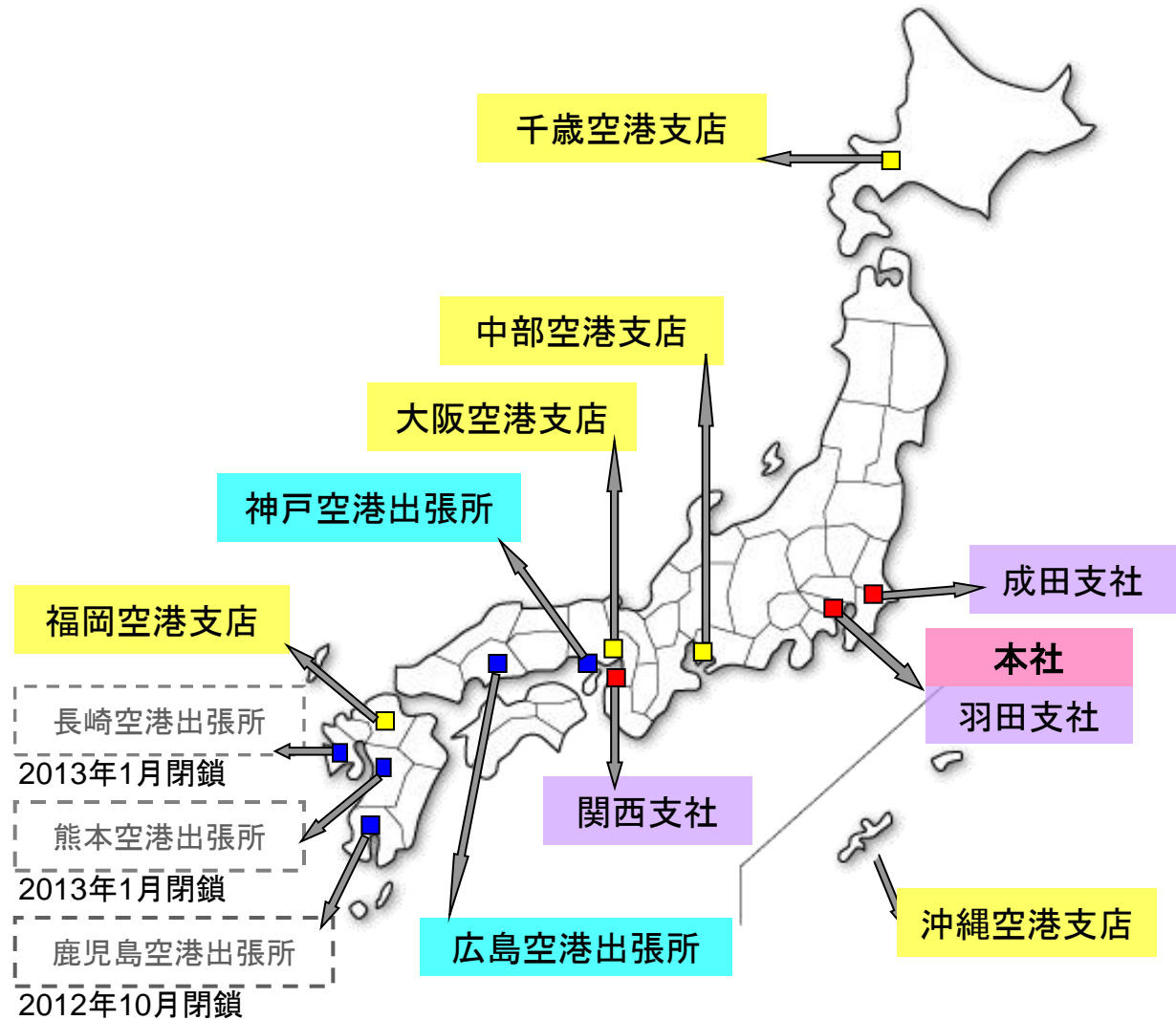
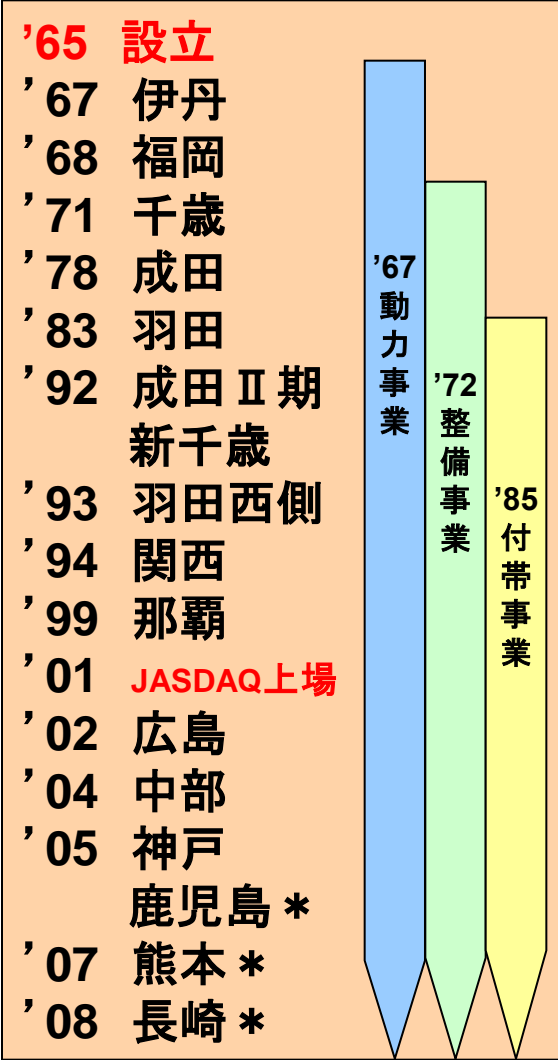
兜町平和ビル2F「第2セミナールーム」

## 当社事業の概要

2012年度(2013年3月期)業績報告

2013～2015年度 中期事業計画

# 当社展開の軌跡



全国10箇所の主要空港に展開

\* '12 鹿児島・熊本・長崎 閉鎖

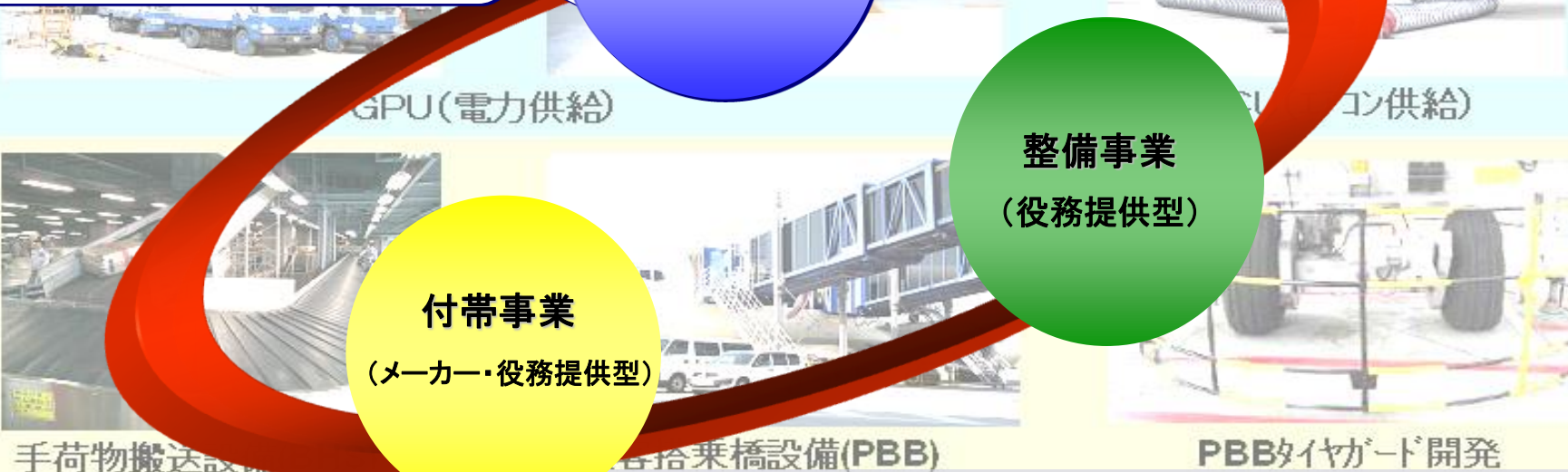
# 当社の事業概要

動力供給(電力・エアコン)は、航空機の排気ガスや騒音を防ぎ、航空燃料を節減し、「地球環境の浄化保全」に役立っています。

**動力事業**  
(設備投資型)

**整備事業**  
(役務提供型)

**付帯事業**  
(メーカー・役務提供型)



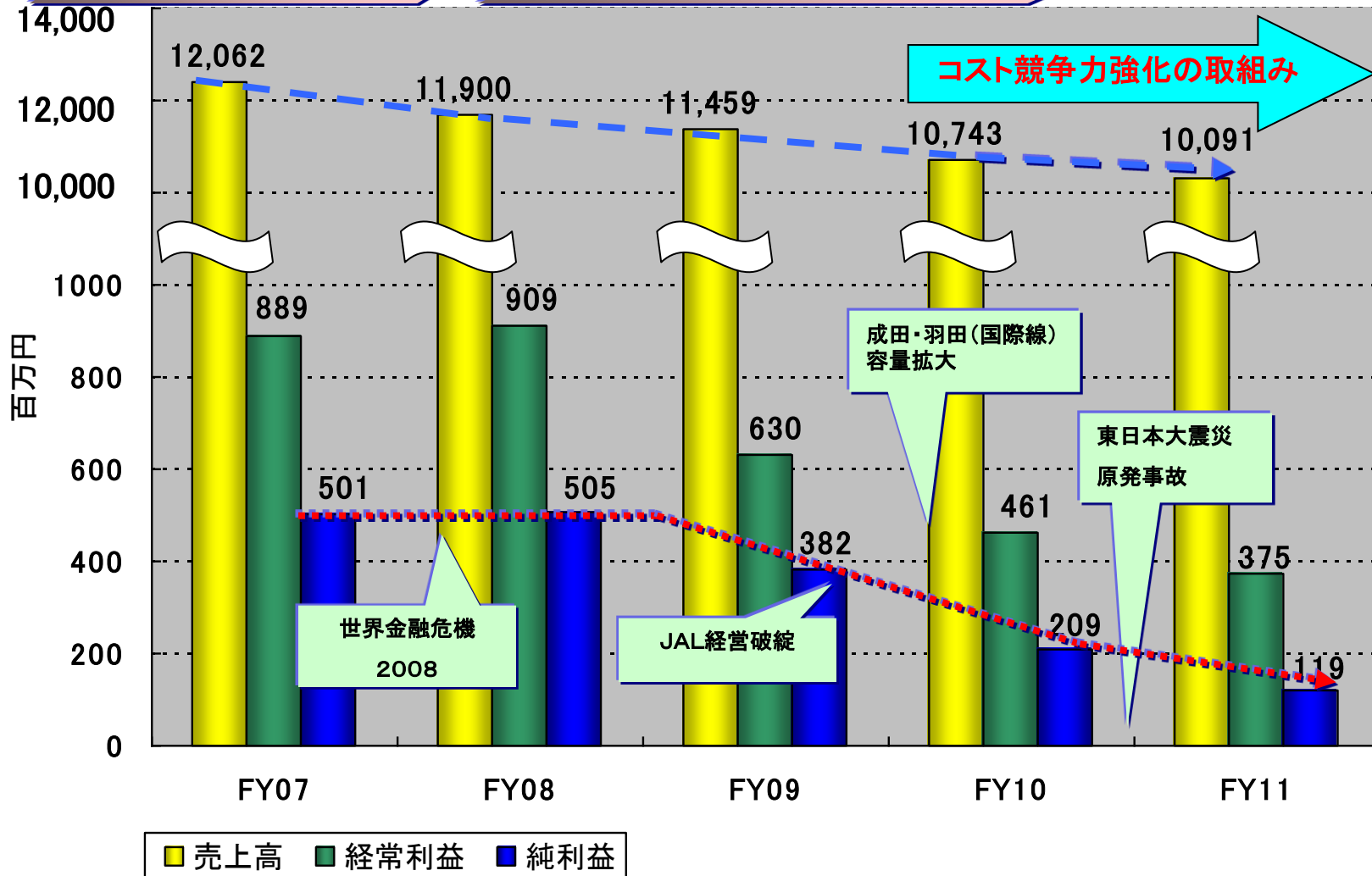
経営資源の配分

項目	売上	資金需要	投入人員	主な顧客 航空関連売上は全体の約95%
動力事業	50%	90%	30%	航空会社
整備事業	40%	1%	60%	空港会社・航空会社
付帯事業	10%	9%	10%	病院・空港会社・航空会社

# 業績の推移

- 空港発着容量の制約
- ネットワーク拡大・維持

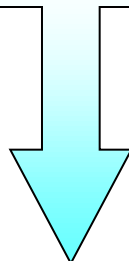
- 規制緩和(大競争時代)
- 採算性重視(機材小型化、多頻度運航)



# 収益力回復に向けて

## 2011年度

- 動力・整備事業の再構築
- コスト競争力を強化し、将来見込まれる航空業界の成長を確実に取り込む



### 『具体的には』

- 総人件費の抑制
- 設備投資の抑制
- 動力料金の改定

(配当; 9円→7円)

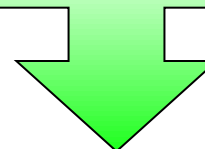
- ・ 訪日旅客は回復傾向
- ・ 大手航空会社に増便の動き
- ・ 本邦LCCの参入
- ・ 航空機の小型化
- ・ 顧客の経費節減施策の強化
- ・ 電力料金の値上げ

## 2012年度

経営環境は回復基調を描くものの  
当面大幅な収入増は見込めないと想定

- コスト競争力強化の継続
- 不採算事業の見直し

安定的に利益を出せる体制の構築



### 『具体的には』

- 鹿児島・熊本・長崎の3空港出張所を閉鎖
- 移動機材動力供給作業の外部委託化(福岡・伊丹・羽田)
- 人材ソースの多様化・当社グループ間での人材流動化
- 新型航空機(B787、A380)向けの設備投資の実行

当社事業の概要

2012年度(2013年3月期)業績報告

2013～2015年度 中期事業計画

# 2012年度 業績

(単位:百万円)

項目	①FY11実績	②FY12予算	③FY12実績	対前年 ③-①	対予算 ③-②
売上高	10,091	10,073	10,462	370	388
セグメント利益	1,038	1,095	1,426	387	331
営業利益	424	463	807	382	343
営業外損益	▲49	▲43	▲48	1	△4
経常利益	375	420	758	383	338
特別損益 *	▲53	▲184	▲186	△132	△2
税引前当期純利益	321	236	572	250	336
法人税および法人税等調整額	▲202	▲104	▲233	△30	△129
当期純利益	119	132	339	219	207

## 【予算対比】

売上 : 動力事業で外国社への販売増、整備事業で大口設備更新工事の受注、付帯事業でフードカートの販売増により増収 (+388百万円)

営業費用 : 動力事業で電力料金値上げの遅れによる原材料費の減、整備・付帯事業は、売上増に伴い原材料費が増 (+56百万円)

\* 鹿児島・熊本・長崎の3空港出張所閉鎖に伴う事業撤退損128百万円(予算150百万円)を計上

その他、老朽化設備の更新による除却損40百万円、社員寮の一部解体による減損損失16百万円を計上



# セグメント業績(対前年比)

(単位:百万円)

	売上高	セグメント利益	増減要因
動力 *	4,904 (+127)	545 (+331)	航空需要の回復に伴う国際線販売増 中堅国内航空会社への販売増 本邦LCCへの販売開始
			減価償却費の減(△155) 人件費の抑制(△57) 電力料金値上げ影響額(+30)
整備	4,329 (+58)	623 (+17)	空港特殊設備の更新工事受注等による販売増 顧客の経費節減施策の強化等による販売減
			材料費・外注費の増(+14)
付帯	1,228 (+184)	258 (+38)	フードカートの販売増 セキュリティ機器の保守管理業務は堅調
			材料費・外注費の増(+82)
計	10,462 (+370)	1,426 (+387)	

収益構造の改善が進む

\* B787運航停止の影響は軽微

( )内前期比

# 営業利益／経常利益／当期純利益

## 営業利益

807百万円 前期比+382

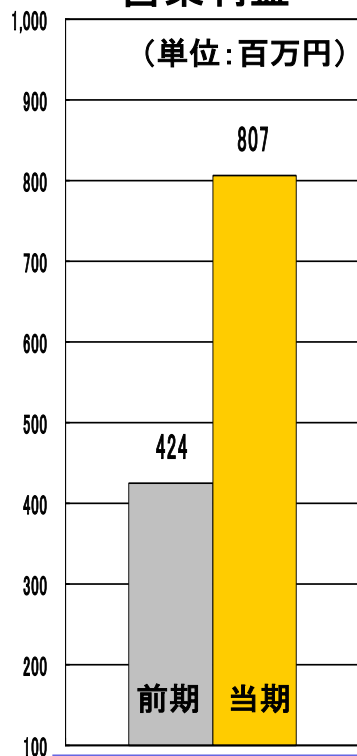
## 経常利益

758百万円 前期比+383

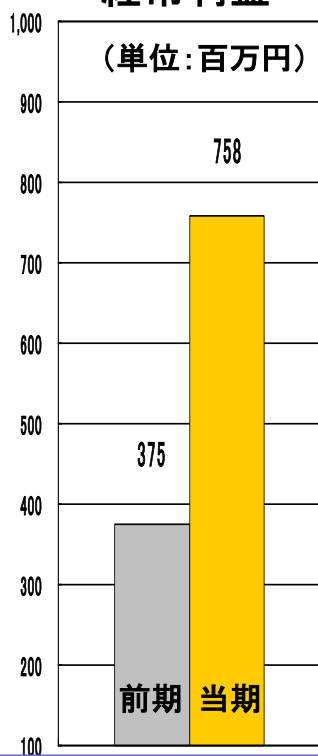
## 当期純利益

339百万円 前期比+219

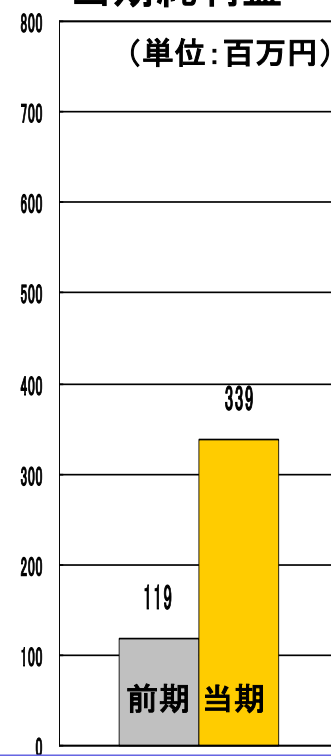
営業利益



経常利益



当期純利益



### <営業利益の増減要因>

セグメント利益 +387  
販売費及び一般管理費の増 +5

### <経常利益の増減要因>

営業外損益 +0

### <当期純利益の増減要因>

経常利益の増 +383  
特別損失の増 \* Δ132  
法人税等の増 Δ30

“増収増益”

➤ 配当につきましては9円を予定しています

## 財務状況等

(単位:百万円)

	前期末 (2012/3/31)	当期末 (2013/3/31)	前年差
総資産	11,583	11,623	+39
純資産	5,752	5,992	+239
有利子負債	3,147	2,524	△622
自己資本比率 (%)	49.7%	51.6%	+1.9pt
ROE (%)	2.1%	5.8%	+3.7pt

(単位:百万円)

	FY11	FY12	前年差
設備投資額	123	550	+427
減価償却費	978	816	△162
グループ総人員数(人)	680	663	△17

---

当 社 事 業 の 概 要

2012年度(2013年3月期)業績報告

**2013～2015年度 中期事業計画**

# 事業環境（航空業界の動向）

・アジア地域の経済発展 ・訪日旅客の回復 ・国内景気上向き  
航空需要は緩やかな回復基調

## 【発着枠の拡大】

- 成田 27万回
- 羽田 41万回
- 成田 30万回
- 羽田 44.7万回

## 【空港整備計画】

- 成田LCCターミナル新設
- 成田第2ターミナル南側スポット再編
- 国管理空港のコンセッション
- 羽田C滑走路延伸
- 福岡・伊丹空港整備計画
- 羽田国内線第2ターミナル増築
- 羽田国際線ターミナル再拡張

## 【航空業界の動向】

LCCシェアの上昇  
 新型航空機の就航増加 ➡ 競争環境の変化

➢ 顧客の経費節減施策継続

FY13  FY15

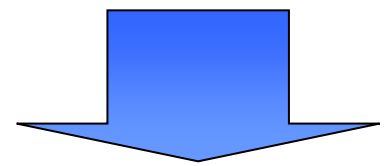
# 基本方針

## 【当社を取り巻く環境】

航空需要の緩やかな回復  
空港整備計画の進展  
などによる航空業界の拡大基調

顧客の経費節減施策継続

イベントリスクの影響を受けやすい  
航空業界



## 【基本方針】

イベントリスク耐性の高い筋肉質の企業体質を維持・強化し、  
既存事業において安定的な収益基盤を確立する



将来の発展に向けた事業領域の拡大を目指す

# 各セグメントのアクションプラン

## 動力事業

- 効果的な設備投資を着実にを行い、拡大基調にある航空業界の成長を確実に取り込む

## 整備事業

- 従来の営業基盤は維持しつつ、既存業務で培ったノウハウを活用し、周辺分野への進出にも取り組む

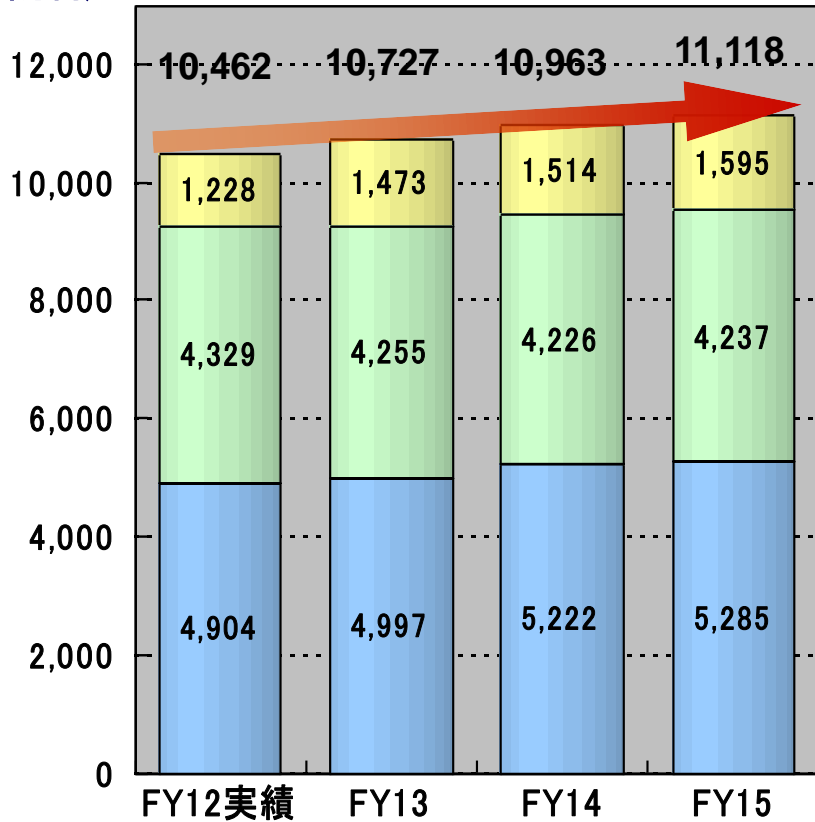
## 付帯事業

- 今後成長が見込まれる、医療・福祉分野におけるフードカート、航空保安用セキュリティ機器の保守管理についてさらに経営資源を投入し、収益力向上を目指す
- 保有する技術力とノウハウを活用した新規事業への進出

# 収支計画

## 売上高

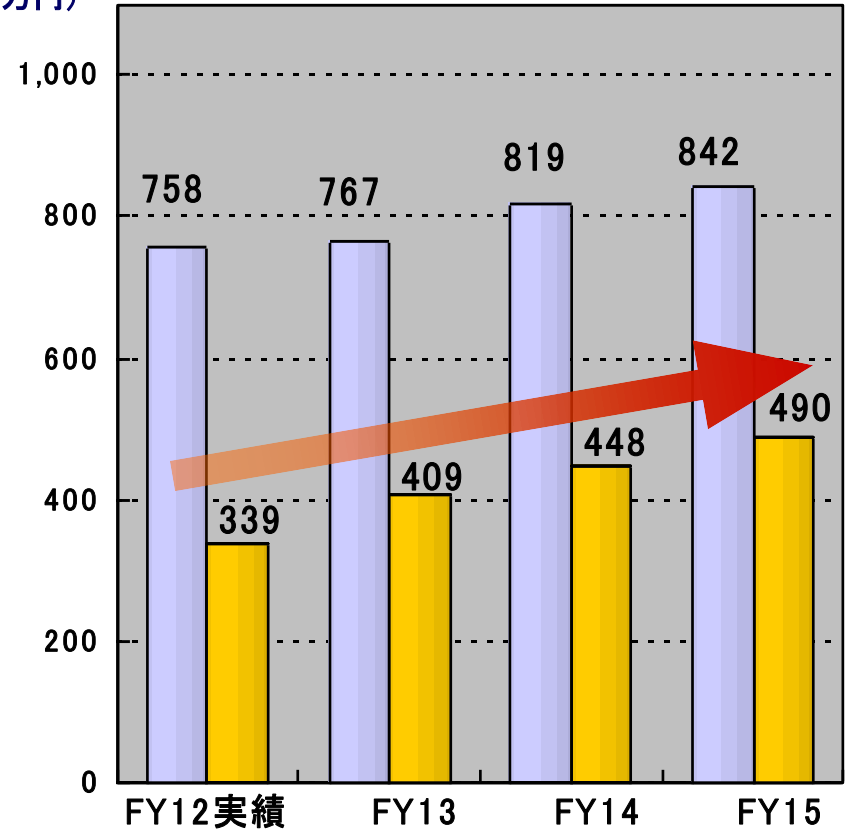
(百万円)



■ 動力事業 ■ 整備事業 ■ 付帯事業

## 利益

(百万円)



■ 経常利益 ■ 当期純利益



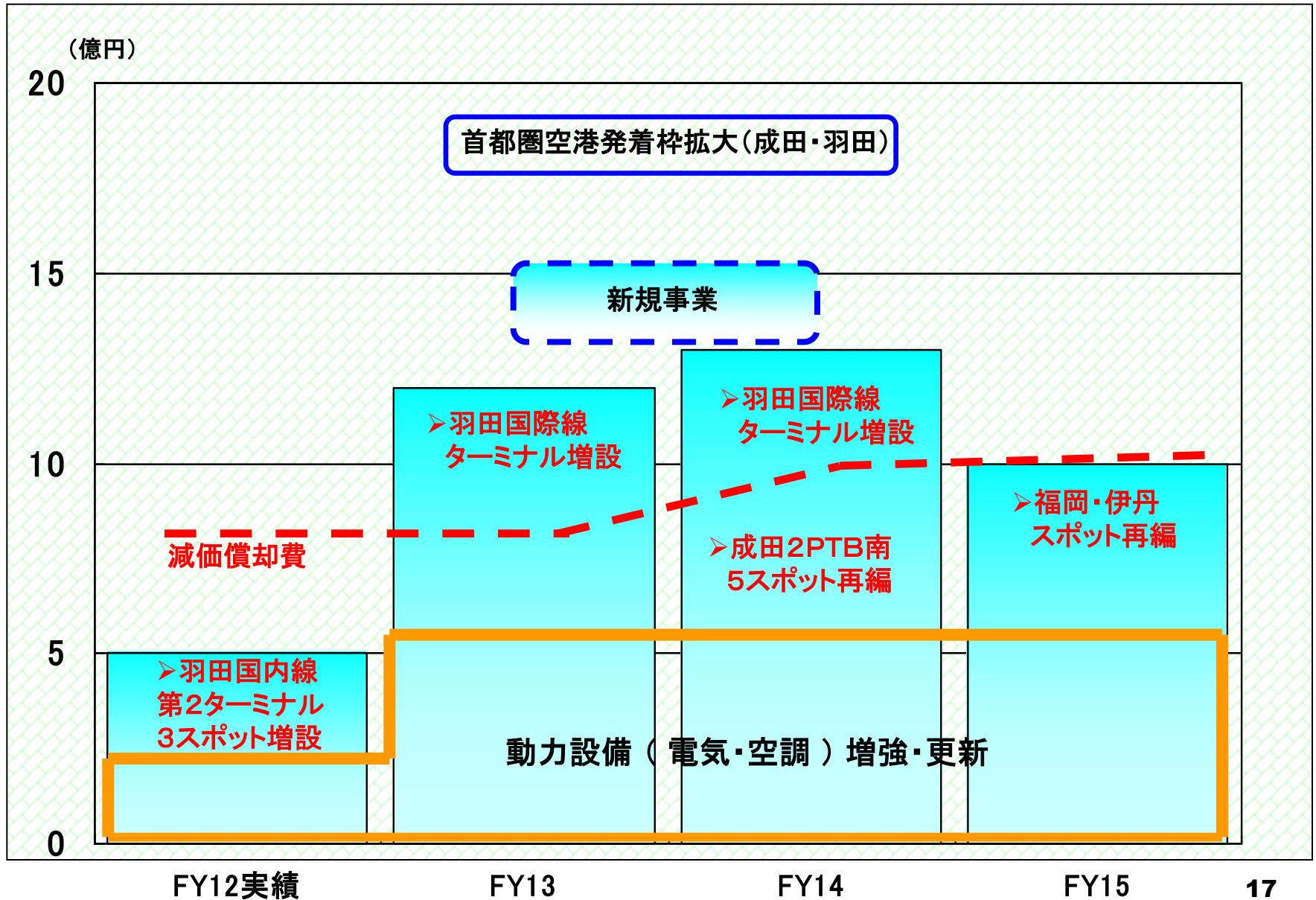
# 本計画期間中のセグメント収支(FY12対比)

(単位:百万円)

	売上高	費用	セグメント利益
動力	+380 (5, 285)	+318 (4, 677)	+61
	首都圏空港(羽田・成田)をはじめとした国際線への販売増 新型航空機への販売増	減価償却費 +172 原材料費 +120 (うち電力料金値上げ+65)	(607)
整備	△92 (4, 237)	△44 (3, 662)	△47
	顧客の経費削減施策の継続 本計画期間中は、わずかな減収		(575)
付帯	+367 (1, 595)	+306 (1, 276)	+60
	フードカート販売増 セキュリティ保守は堅調に推移 新規事業	原材料費 +166 減価償却費 +47 人件費(増員) +80	(319)
計	+655 (11, 118)	+581 (9, 616)	+74 (1, 501)

( )内はFY15計画値

# 設備投資計画



## 設備投資額・減価償却費・有利子負債等

項目	FY12	FY13	FY14	FY15
設備投資額 (リース扱い含む)	5億円	16億円	13億円	10億円
減価償却費	8億円	8億円	10億円	10億円
営業 キャッシュフロー	13億円	13億円	15億円	15億円
有利子負債 (新規の長期借入金)	25億円 (-)	23億円 (3億円)	20億円 (-)	19億円 (3億円)
グループ総人員数	663人	643人	640人	639人

# 2013年度見通しと2015年度までの計画

(単位:百万円)

項目	①FY12実績	FY13	FY14	②FY15	②-①
売上高	10,462	10,727	10,963	11,118	655
セグメント総利益	1,426	1,407	1,474	1,501	74
動力事業セグメント利益	545	591	599	607	61
整備事業セグメント利益	623	503	575	575	△47
付帯事業セグメント利益	258	312	298	319	60
営業利益	807	788	851	869	62
経常利益	758	767	819	842	83
特別損益	▲186	▲47	▲31	▲10	176
税引前当期純利益	572	719	787	832	259
当期純利益	339	409	448	490	151
ROE	5.8%	6.7%	7.0%	7.2%	+1.4pt

2012年度(2013年3月期)

決算説明会



株式会社エージーピー

2013年5月27日

兜町平和ビル2F「第2セミナールーム」

- 本日は、弊社決算説明会にご参加いただきましてありがとうございます。
- 本日配布しました資料に記載されている将来の業績予想は、経営環境の変化などに伴い予想あるいは目標対比が変化し得ることにご留意ください。

## お問合せ先

株式会社エージーピー 総務部 総務・IRグループ

電話:03-3747-1631

FAX:03-3747-0707

URL:<http://www.agpgroup.co.jp>

(会社案内ビデオがご覧いただけます)

